



PipeLine



特集

分科会
「社会分野」「医療・スポーツ科学」

No.60 Contents

特集	分科会 1「社会分野」 2「医療・スポーツ科学」	P1 P3
教養のページ	服の中に虫が入ったとき、平安貴族はどうする?	P5
FD部会より	FD活動の意味	P7
共通教育実施委員会からのお知らせ	知プラe科目ってどんな科目?	P9

社会分野分科会

社会分野分科会長 岡田 健一郎(人文社会科学部)

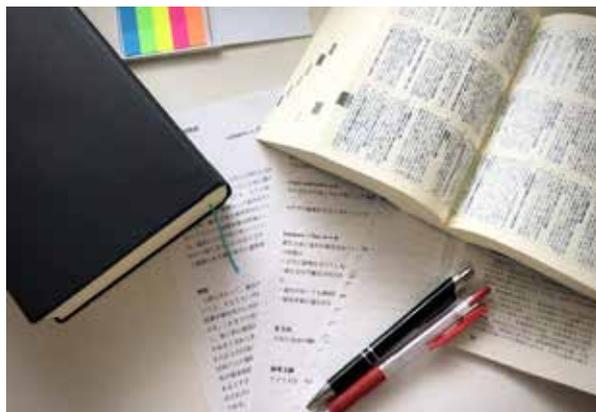
社会分野分科会が担当する授業

毎年、共通教育の教養科目のうち、社会分野では約60科目が開講されています。なかなか多いですね！ 社会分野では基本的に「社会科学」に分類される科目を実施しています。「社会」とは何か、「社会科学」とは何か、という問いは重要ですが私の手に余るテーマです。さしあたりここでは、経済学、経営学、法学、政治学、社会学などが含まれると思って頂ければOKです。

共通教育で社会分野科目を学ぶ意義

さて、共通教育で社会分野科目を学ぶ意義は何でしょうか。これは難問です。専門科目だけを集中して学んだ方が、ずっと効率的で深い学びができそうな気がします。しかし多くの大学では専門科目だけでなく共通教育（あるいは教養教育）を必修にしているところを見ると、やはり専門科目だけでは何かが足りない、と多くの大学が考えているようです。きちんとした話は大学教育の専門家に聞いて頂くとして、ここでは私なりに「共通教育で社会分野科目を学ぶ意義」を考えてみたいと思います。

教育学者の本田由紀さんは、『教育の職業的意義』（ちくま新書、2009年）において、「教育の職業的意義」として〈適応〉と〈抵抗〉という2つの側



面を指摘しています。まず、〈適応〉とは「自分を変えて環境に合わせてゆく方向」とされます(同書183頁)。要するに、職場や社会に上手になじんで仕事をきちんとこなしていく能力のことであり、これは日本の教育で(特に経済界から)強く求められがちな側面といってよいでしょう。もちろんこれは大事な能力です。しかし本田さんは〈抵抗〉の側面も大事だといいます。ここでいう〈抵抗〉とは「自分が正しいと考える状況へと環境を変えてゆく方向」とされます(同上)。例えば、入社した会社がいわゆる「ブラック企業」だった場合、そこで全面的に〈適応〉してしまったら、長時間労働やハラスメントなどで自分の健康が損なわれてしまうでしょう。だからこそ、きちんと異議申し立てを行い、おかしいルールや習慣を変えるという〈抵抗〉のスキルが必要になってきます。要は〈適応〉と〈抵抗〉のバランスが肝心なわけです。



多くの学生さんは卒業後、基本的に会社や役所に雇われて働くことになるはずですが、そこでトラブルに遭った場合、ワークルール(労働法をはじめとする働き方のルール)を知らなければ、「そういうもんか」と思ってガマンしてしまうかもしれません。しかし、「この社会には労働法というものがある、いくら上司であっても、部下を無制限に働かせることはできないし、残業代はきちんと支払わなくてはならない」という知識があれば、誰かに助けを求めるきっかけになるかもしれません。私が担当している「憲法を学ぶ」では、労働法についても若干取り上げています。もちろん、専門科目の労働法と比べれば初歩的な内容であり、これを学んだだけで労働法の専門家になれるわけではありません。しかし「何かヘンだな」と思い、他の誰か(友人、家族、労働組合、弁護士など)に相談してみようと思えるかもしれません。これも〈抵抗〉の一つの形といえるのではないのでしょうか。

他方、自然科学を専攻する学生さんが経済学や経営学を学ぶことは、企業に就職したときの〈適応〉に役立つこともあるでしょう。今はピンと来なくても、いつか「ああ、あの授業ではこのことを言っていたのか」と感じる時があるかもしれない。即効性はなくても、将来どこかの場面で役立つ(かもしれない)〈適応〉と〈抵抗〉の「種」をまいておくこと。それが(社会分野に限らず)共通教育を学ぶ意義ではないか、と私は考えます。



医療・スポーツ科学分科会

医療・スポーツ科学分科会長 宮本 隆信(教育学部)

「医療・スポーツ科学分科会」は、2020年度に「生命・医療分科会」と「スポーツ・健康分科会」が統合され現在に至っています。

大学における教養科目のまとまりとして、医療・健康・スポーツがなぜ同じまとまりとなるのか、不思議に思う方もいらっしゃるかもしれません。この言葉の順序だとなかなかピンとこないかもしれません。それでは、健康・スポーツ・医療の順に置き換えて考えてみてください。いかがでしょうか。それでもまだピンとこないかもしれません。

我々は日々生活をしていますが、その中で社会は、超高齢化社会となっています。その中で重要になってくるのが、健康で元気に暮らせることではないでしょうか。何事をするにしても、まず体が健康であることが基本になります。皆さんは、人間の発達区分でいうと青年期であり、人生の中でも最も体力のある時期、発達している段階を生きています。しかしながら、その最盛期の体力は、何もしないで生活をしていると、加齢に伴って、漸減していきます。その健康を発達、維持していくために効果のあるものとして、運動、スポーツがあります。また医療は、健康を害することによってはじめてかかわることになるものです。このようなまとまりで考えていくと、この「医療・スポーツ・健康」が一つのまとまりとなることの意味が少しは理解できたのではないのでしょうか。

さて、それでは「医療・スポーツ科学



分科会」で開講している科目について、紹介していきます。2021年度は、講義科目として、「スポーツ科学講義ABC」、「健康ABCD」、「アルコール学概論」、「一般学生のための医療と医学の知識I、II」、「地域の中で剣道を学ぶ」の11科目が開講され、1143名が受講しました。またスポーツ科学実技として、「硬式テニス(2)」「卓球」「バドミントン(4)」「フィットネス」「ソフトバレーボール」「ボウリング」「ローンボウル」「エアロビクス」「一から学べる筋力トレーニング」「剣道」「バスケットボール」「フットサル」の17科目が計画・実施され、357名が受講しました。(コロナ禍の制約の中で、開講できない科目もありました。)



このように「医療・スポーツ科学分科会」は、講義科目、実技科目をバランスよく配置して、教養としてのみなさんの健康、スポーツさらには医療に関する知識、体力の保持増進を担っています。これらの科目は、主に朝倉地区でのスポーツ科学講義、スポーツ科学実技、健康などの開講が中心となっていますが、岡豊地区、物部地区でもいくつかのスポーツ実技とスポーツ科学講義を開講しています。

みなさんは、心身の健康にとって、身体活動の必要性・重要性を、少なからず認識しているのではないのでしょうか。実際にスポーツ活動をするにあたっては、時間、空間(場所)、仲間の3条件が必要とされますが、大学の授業では、この3条件が用意されています。この3条件を授業外に求めようとすると、費用面を含め負担があると思います。スポーツや健康などの知識を得て、実際に実技に参加することによって、学生生活をより充実したものにしてみませんか。

興味がない。一人での参加は気が重い。
 などと思っているあなた。そう思っても、そこに参加するまでです。いざ参加するときと楽しく感じられることでしょう。新たな種目を経験すること、技能レベルの異なる人と活動すること、初めての人や他学部の人と一緒に活動すること、仲間として一緒に活動することで得られるものは大きいですよ。

食わず嫌いをせず、スポーツ実技にチャレンジしてみてもいいですか。



服の中に虫が入ったとき、 平安貴族はどうする？

人文社会科学部 大塚 誠也

●まず平安貴族をイメージできる？

新入生その他の皆さん、「平安貴族」と聞いてどのような人たちをイメージしますか？ 有名どころは藤原道長や紫式部ですね。ゆったりした高価そうな衣装、男は変な帽子、女は黒髪、扇で顔を隠してオホホと笑うような人たちです。

彼らは我々庶民が想像できないような権力と財力を持ち、意外と勤勉に労働したり、恋に破れて逆ギレしたりしていました。



●スイミングスクールで大塚少年は？

平安貴族と虫の話に入る前に、30秒だけ昔話をさせてください。私は小学生の頃スイミングスクールに通っていたのですが、ある日バスタオルに生きた蜂が付いたことがありました。身体を拭いたとき太ももに激痛が走り、何事かと目をやるとタオルにとまった蜂がこちらを見ていました。

私は痛みと恐怖でパニックになり、バスタオルを放り出してそのまま帰りました(さすがに急いで服は着ました)。あのバスタオルは職員さんが燃えるゴミに出したことでしょう。



●肥後という女性は「きりぎりす」を？

「どうせ虫めづる姫君の話だろう」と思っているそのあなた、筋が良いですが惜しいです。あの話はフィクションですし、あの人はみずからの手で服の中に虫を突っ込みます。

「肥後」と呼ばれた女性が平安時代にいました。肥後は大臣家に仕える侍女として働きながら、自分の作った和歌を集めた『肥後集』を遺しました。その中につぎのエピソードがあります。

暁がた京極殿にて、簾を巻き上げて人々長押に枕をして伏したるに、
袖の中にきりぎりすの鳴けば
手枕や袖の中なるきりぎりすなくなくと人を恋ひあかすかな

皆さんも情景を想像してください。「暁がた」は夜明け頃のこと、「京極殿」は勤務先の大臣邸です。「簾(すだれ)」はわかりますね、カーテンみたいな家具で、それを巻き上げており、宿直していた人々は「長押(なげし)」という床のどっぴりを枕がわりに横になっていた。なんだか合宿みたいでかっこいい。

そんなとき肥後の袖の中で「きりぎりす」が鳴いたの



古典の世界は多種多様で無限

で、彼女は和歌を詠みました。当時の「きりぎりす」は現在のコオロギを指すらしいです。

ここでいったん答えが出ましたね。服の中に虫が入った平安貴族は、和歌を詠んでいます。現代人にこんな人がたった一人でもいましょうか。さらに和歌の内容が情熱的です。「手枕」は腕枕のことで、コオロギに腕枕をしてあげているイメージです。「なくなく」は鳴くと泣くの掛詞(かけことば)で、虫の風流な鳴き声が、切ない恋に泣いているイメージと重なります。「人を」は泣く原因となるいとしいあの人を指します。要は片思いの相手なんかです。

コオロギと肥後は共寝をしているのですが、二人ともいとしい誰かに恋い焦がれながら、眠れぬ夜を明かしているようです。



●古典をカジュアルに読む？

私はこのエピソードを目にしたとき、まさきにスイミングスクールの蜂を思い出しました。さすがにもう怖い思い出ではありませんでしたが、妙に気持ちが慰撫されて、人間と虫の間に差はないのだという空想にふけりました。

古典というと『枕草子』や『平家物語』がまず想起されますし、なんだか高尚な雰囲気があります。しかし、古典はもっとカジュアルに読むこともできます。「うわ、服に虫が入った」とか「お、琵琶法師のギターソロじゃん」とか、読者が注目したいところに注目してよいのです。その発見や感動はツイッターに投稿してもいいですし、研究者であれば論文につながるかもしれません。

古典の世界は多種多様で無限です。古典作品は、皆さんに読まれるのを今この瞬間も待っています。



FD活動の意味

共通教育実施委員会 FD 部会長 波多野 慎悟（理工学部）

今年度から共通教育実施委員会のFD部会長を務めている理工学部の波多野です。FDとはFaculty Developmentの略で、教員の教育能力を高めるための組織的な取り組みのことを表します。FD部会は、共通教育の各分科会のFD活動を支援しています。

では、「教員の教育能力を高める取り組み」とはどのようなものでしょうか？

個々の教員ができる取り組みとしては、授業内容の振り返りや、学生からの質問や授業アンケートなどが挙げられます。授業内容の振り返りは、新しい科目を担当したときには特に効果的で、次年度の授業への改善につながります。ところが、何年も同じ授業を担当していると、自分の授業が十分に洗練された内容だと思い込んでしまい、あまり改善されなくなることがあります。

そういう時に役立つのが、学生からの質問や授業アンケートです。教員は質問内容やアンケート結果を参考にし、授業内容や方法を改善できます。学生の皆さんの中には「こんな簡単な質問したら恥ずかしいかな」と思って質問を躊躇する人もいます。しかし、そんなことはありません。簡単な質問でも、授業の中で分かりにくいと感じた受講生がいたのは事実です。その事実に対して「もっと分かるように教える方法はないだろうか」と考えることで、改善につながります。質問は一方通行ではなく、教員-学生双方にとってWin-Winなものであると思えば、学生の皆さんも少し気楽に質問できるかもしれません。



このように、個々の教員の力だけでもそれなりに授業改善はできます。改善する過程で、教育能力も向上するはずですが、では、組織的な取り組みを行う意味とは何でしょうか？

FD活動には、教員間での授業参観、講演会、意見交換会などがあります。授業を他の先生に見てもらいと、良かった点や改善点などをもらうことができ、授業方法の改善につながります。他の先生の授業を見ると、自分と他人の授業方法の違いを知ることができます。講演会や意見交換会でも同じような気づきが得られます。FD活動を通して、様々な授業方法を知る中で、自分の視点になかったものを上手に取り込むことができれば、その経験が教育能力の向上につながります。もちろん、自分の授業方法として取り込めないものもあります。その場合も、なぜ無理なのかを考えることで、自分の授業方針やこだわりを認識することに役立ちます。このように、様々な授業方法を知り、取捨選択できる機会を得られることが、FD活動を行うメリットです。

もう1つ重要な点は、教員同士が相互に影響を及ぼし合うことで、効率よく教員全体の教育能力を高めることができることです。私自身、FD講演会で面白いと思ったことを授業に取り入れたことがありますし、その成果を別の講演会で話したこともあります（誰かに影響を及ぼしたかどうかは不明ですが…）。組織としての効果を考えると、この点はとても重要です。

最後にちょっと学生向けの話をします。「自分と異なる考え方に触れる」「自分の知らないことを知る」ことは「多角的な視点」を持つきっかけになります。多角的な視点を持つと、他人の考えを理解し良好な人間関係を築ける、色々な発想が浮かぶ、といったメリットが期待できます。持っていて損はない能力ですね。多角的な視点を鍛える方法はいくつかあります。教員のFD活動のように他の人の考え方に触れ、その考えを理解しようとするだけでも鍛えられるし、普段の自分では決してやらないような経験をするだけでも鍛えられると思います。

共通教育の教養科目は、自分が専門とする分野以外の科目を履修できます。これまで自分が触れてこなかった分野の授業を学び、そこで他学部の学生の考え方に触れることで、皆さんの視点も変化するかもしれません。「絶対無理！」って思う授業を受ける必要はありませんが、シラバスを読んで「ちょっと面白そうかも」って思う授業があれば、思い切って履修してみるのも教養科目の楽しみ方だと思います。

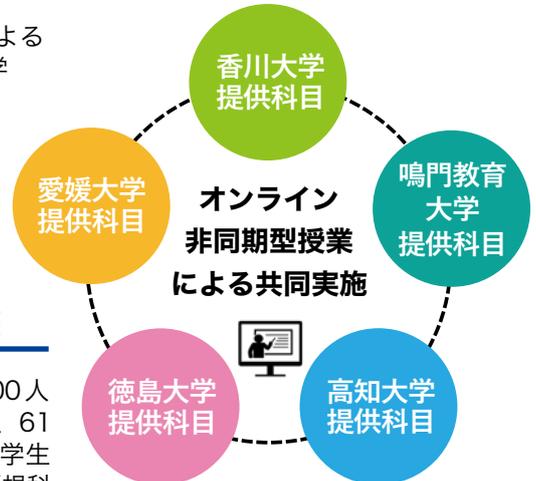




知プラe科目ってどんな科目？

学務課全学・共通教育係 知プラe担当

知プラe(四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業)では、高知大学を含む四国の国立5大学(高知・香川・愛媛・徳島・鳴門教育)が相互に連携し、各大学のMoodle(LMS:学習管理システム)を活用した「知プラe科目」の共同実施を行っています。
知プラe科目は、ネット環境さえあればどこでも連携大学間で提供される科目を自大学の開講科目として履修することができます。



令和3年度は61科目を開講し受講生は1万人を突破！

知プラe科目の共同実施は、平成26年度に8科目、履修者数約600人からスタートしましたが、順調に実績を伸ばし、令和3年度には、61科目が開講され、履修者数は延べ1万人を超えました。今後も、学生のみなさんのニーズに合う多岐にわたる学びを提供できるよう、新規科目の開講や字幕付け等のバリアフリー化、既存科目のコンテンツの定期的なブラッシュアップ等、様々な取り組みを行っていきます。学生のみならず、ぜひ、知プラe科目を受講してみませんか。教員の方は、ご自身の担当される科目を知プラe科目に提供してみたいか、大学間を越えた履修生を受け入れることで、様々な発見もあるかと思えます。ご興味のある方は、学務課全学・共通教育係知プラe担当までお声がけください！

授業科目例

- 気象学入門
- データサイエンスを活用した防災・危機管理
- 海洋地球科学概論
- 飛行機はなぜ飛ぶのか
- 四国の歴史と文化 その1・その2
- 社会科学における確率・統計入門
- 学校教員の世界
- インドネシアの文化と会話

この他にも多彩な科目があります！

知プラe科目のいいところは？

- ネット環境があればどこでも自分のペースで学修できる！
- オンライン上のコミュニケーションツールを使って他大学の学生と交流できる！
- 自大学にない分野の他大学提供科目を受講できる！

知プラe科目の詳細は下記のサイトをチェック！

知プラe



大学連携e-Learning教育支援センター四国HP
<https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

編集後記

共通教育広報誌『パイプライン』も第60号刊行を迎えました(本当は、第50巻の際にも言及すべきでしたが(汗)...)。何はともあれ、ここまでやって来られたのも偏に先生方、事務スタッフ、学生の皆様のご協力があったからに他なりません。幾分災禍も落ち着きつつありますが、世の中、良きにつけ悪きにつけ不断に変化してゆきます。生き残るための最大の武器は「学び」であると認識を新たにす今日この頃です。(SY)

高知大学共通教育広報誌 [パイプライン] No.60

発行 / 高知大学共通教育実施委員会
編集 / 共通教育実施委員会広報部会
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
☎088-844-8168(学務課全学・共通教育係)

発行日 / 2022年11月
制作 / ㈲西村謄写堂

□ 広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
Mail : gm06@kochi-u.ac.jp